

## ロボテック戦略月次レター（2021年7月の振り返り）

# 日本の先行指標に明るさ

工作機械受注やロボット受注など、製造分野の世界的な力強い回復を引き続き示唆

7月の世界株式市場（MSCI ACWI、米ドルベース）は、年前半の強い流れを受け、やや上昇しました。堅調な四半期決算に牽引され、世界の政府および中央銀行による金融緩和策の継続が下支えとなり、グロース関連セクターへの物色が続いています。



ロボテック戦略は当月、特に好調だったヘルスケアセクターに牽引され、世界株式に対してアウトパフォームしました。当戦略の銘柄において、良好な四半期決算発表が相次ぎました。

日本の工作機械受注やロボット受注などが製造分野における世界的な力強い回復を示唆しており、自動化関連企業の業績拡大が見込まれます。

購買担当者景気指数（PMI）などの産業活動指標は、引き続き堅調な景気拡大を示しています。日本の産業活動の先行指標である工作機械受注やロボット受注などは、製造分野における世界的な力強い回復を引き続き示唆しており、自動化関連メーカーの業績拡大が見込まれています。

### ヘルスケア関連銘柄が依然堅調

7月のヘルスケア関連銘柄は、前月に続き堅調なパフォーマンスとなりました。糖尿病患者向け持続血糖値測定器の主要メーカーであるデクスコムがプラス寄与しました。同社は7月末に好調な四半期決算

を発表し、株価が急騰しました。同社機器の使用対象が2型糖尿病（遺伝と生活習慣から発病する糖尿病で、糖尿病患者の大半は2型）に拡大されたことが、市場で大きく評価されています。



米国の病院では新型コロナ感染への緊急対応が一段落し、通常の医療活動が徐々に拡大しています。

手術支援ロボットのリーディング企業であるインテュイティブサージカルも、7月下旬に堅調な決算を発表しました。同社は同社ロボットを使った今年の外科手術件数予想を上方修正し、前年比で27-30%増を見込んでいます。病院がコロナ対応に追われ、緊急性の低い手術が延期された昨年からの本格的回復を予想しています。

なお、ここに来て新型コロナウイルスの変異株感染拡大が世界的に懸念されていますが、昨年とは異なり、米国では病院の受け入れ態勢が整ってきていて重症患者も少なくなっ

っており、手術数の増加傾向に大きな影響を与えることはないとみられます。

## 産業用ロボット関連企業の受注大幅増

旺盛な産業活動や産業用ロボット企業の受注の大幅増は、コロナ感染拡大で混乱した2020年を経て2021年における景気回復の継続を示唆しています。産業用ロボット受注などは当初、中国の早期の回復に牽引され、そして米国の回復が続きました。今では、欧州や日本にも回復傾向が広がっています。

品質管理や検品のためのセンサーおよびビジョンシステム製造を手掛けるキーエンスが7月下旬に発表した4~6月期決算は良好で、売上高と営業利益が過去最高となりました。欧米やアジアなどで、センサーなどのファクトリーオートメーション（FA）機器が回復しました。他のロボット関連企業の業績も好調で、産業用ロボット大手ファナックの4~6月期も好決算となり、受注高は四半期として過去最高となりました。中国向け受注が増加傾向を維持し、回復が遅れていた欧州向けが大きく伸び、国内向けも増加しました。

## 半導体関連銘柄も堅調

当戦略の半導体関連銘柄も、年初の一時的なボラティリティの高い局面を経て良好なパフォーマンスを継続しています。特にアドバンスト・マイクロ・デバイセズ（AMD）など、ハイパフォーマンス・コン

ピューティングや人工知能（AI）向けプロセッサに特化した企業が好調です。AMDは7月下旬に4～6月期決算を発表し、旺盛な需要を背景に売上高は前年同月比でほぼ倍増となりました。

## EUの新たな自動車規制方針でEV関連の設備投資加速へ

欧州連合（EU）は7月、ハイブリッド車を含むガソリン車などのエンジン搭載車の新車販売を2035年に事実上禁止する方針を打ち出しました。これを受け、独フォルクスワーゲン傘下のアウディ、英ジャガー、独ダイムラー傘下のメルセデス・ベンツなどの欧州高級自動車メーカーが、相次いで電気自動車（EV）専業への転身を発表しました。今後、EV関連で自動化などの設備投資のさらなる加速が予想されます。

EVの普及で注目されるのは日本電産です。エンジン車においては、自動車メーカーが車の心臓部であるエンジンを自ら開発し、周辺部品は部品メーカーが製造してきました。多くのEVメーカーは、バッテリーを初めとして、モーターやギアを一体化した「eアクスル」を外部調達しています。日本電産はこのeアクスルで先行しており、EVの主要市場である中国にeアクスル工場を建設し、同国のEVメーカーへの供給を拡大しています。

### 関連リンク

[米ヘルスケア銘柄が堅調: ワクチン接種の更なる拡大で、手術支援ロボット市場は年後半にも正常時の水準に回復へ](#)

[日本の自動化銘柄が好調: ロボット受注など日本の産業活動の先行指標、世界経済回復の恩恵を受けて堅調に推移](#)

[ヘルスケアセクターが堅調: 新型コロナワクチン普及による経済再開に伴い、手術支援ロボットの需要拡大へ](#)

[半導体不足の影響は?: 影響は一時的、半導体企業やロボット関連業界には中期的に恩恵に](#)

[アクサIMのロボテック戦略について](#)

[フラムリントン株式: 注目のテーマ株式](#)

[ポートフォリオ・マネージャーが語るロボテック戦略への新型コロナウイルスの影響](#)

ディスクレーム

#### アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2021年3月末時点で約8,690億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年3月時点で5,740億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

アクサIMは20カ国27拠点において2,440名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

#### 投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

##### 【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-21927